

名鉄ハイキング 2,500人まちなか歩き

住民の心のこもったおもてなし

名鉄沿線ハイキング「笠松秘仏めぐりと笠松刑務所矯正展」が10月31日名鉄柳津駅をスタートし、笠松駅のゴールを目指す約8kmのコースで開催されました。

晴天に恵まれ、県内外から2,500人が笠松町を訪れ、まちなか歩きと町内随所で住民の皆さんによる心のこもったおもてなしを満喫しました。

昨年に続き、ハイキングで笠松を訪れる方に「ようこそ、笠松へ」という温かい気持ちで迎えようと、町民有志の皆さんが会合を重ね、それぞれが「無理をせず、できることをしてみようよ」という気持ちで取り組まれました。

秘仏を公開した慈眼寺、誓願寺、瑞應寺では、仏像の由来やいわれの説明があり、参加者は興味深く聞き入っていました。



おもてなしのお茶にホッと一息



スタンプ帳を眺め「次はどこへ行こうかしら」

手作り布製品や木工品などの物販やバンドの生演奏も行われました。

一方、道徳のまち笠松推進会議の皆さんは、きれいな街の中で、気持ちよくハイキングを楽しんでもらおうと町内の方々に呼びかけ、ハイキングコースを清掃しました。

このような住民の皆さんのさまざまな取り組みにより、笠松を訪れた人々は、秋の一日、笠松の魅力に満喫し、帰途につかれたことと思います。

町では、このような住民の皆さんによるまちづくり活動を積極的に支援し、皆さんと一緒にまちづくりを進めていきます。



まちなか歩きを楽しむ皆さん



ていねいに説明する笠松を語り継ぐ会の会員

田代の白鬚神社では「道三、信長別れの地」に関する

説明看板が設置され、笠松を語り継ぐ会の会員が、参加者からの多くの質問にていねいに説明されていました。また、境内では田代西フレッシュの会の皆さんがお茶の接待をされ、このおもてなしのところが、参加者には癒しの時間になりました。

また、本町通りでは、NPO法人元気きそがわによる「かさまつまちあるきスタンプラリー」が催され、スタンプ帳を手にした参加者たちがスタンプ設置店舗を巡り歩き、通りには一昔前の賑わいがよみがえったようでした。

スタンプラリーのゴールである八幡神社では、一六市の再現と銘打って、



八幡神社ではウィニーも来訪者をおもてなし



笠松みなと公園でのんびりする皆さん